



PE-BOSAI2020 プロジェクトについて

防災支援委員会 野村 貢

PE-BOSAI2020 とは

- 技術士、日本技術士会における防災支援活動の再定義
- 技術士、日本技術士会における防災支援活動の発掘、編纂
- 技術士、日本技術士会による防災支援活動の拡大、活性化、社会実装
- 技術士、日本技術士会の防災支援活動の社会発信

技術士、日本技術士会における防災支援活動の再定義

- 災害とは何か（大規模自然災害、サイバーテロなどマンメイドリスクもある）
- 事前防災の重要性（あらかじめリスクに備えて対処しておくことが被害の最小化に繋がる）
- 事前防災を社会活動と企業活動に浸透すべき（例えば社会的インパクトの大きい企業に事前防災の監査を必須化するなど）
- 発災時、緊急対応、復旧時、復興段階における技術士、技術士会活動の位置付けを整理、各段階における技術士活用モデルを提案
- 土業連携など活動の輪の拡大

技術士、日本技術士会における防災支援活動の発掘、編纂

- 全国、さまざまな場所、立場で技術士、技術士会は防災支援活動を実施しているが、それをまとめる場所がなかった
- 有意義な活動も記録されることなく、埋もれている
- これまでの活動やヒストリーを整理することは、新たな防災支援活動の参考になるとともに、技術士、日本技術士会の励みになるはず
- 日本技術士会の本来の公益性はここにあるのでないか

技術士、日本技術士会による防災支援活動の拡大、活性化、社会実装

- 技術士の特性の理解とそれを活かした「技術士による防災支援メニュー」の社会発信が必要
- 自治体、土業など関係団体に対する説明資料がないと、地域本部、県支部活動に上手く活かせない
- 個の防災活動支援からネットワークへ（技術士登録者数9万人、日本技術士会会員1.8万人/準会員0.3万人含む）
- 技術士、日本技術士会の潜在能力（人的ポテンシャル、多様性）を防災支援活動のステージで引き出す
- 社会に実装されてこそ、技術も技術士も価値があり、会員はそれを望んでいる

技術士、日本技術士会の防災支援活動の社会発信

- 日本技術士会のこれまでの防災、防災支援についての社会発信は十分であったか
- 全国防災連絡会議は、会員に向けた「内向き発信」、これまで日本技術士会は「外部発信」の必要性を認識していたか
- 社会実装には、適切な情報発信が不可欠（日常化プロセスの重要性）

重視するキーワード

- 災害の多様性、事前防災、ネットワーク、リスクマネジメント、科学技術、専門性、技術の多様性
- 公益性、社会市民としての技術士・技術士会、長い歴史、埋もれたヒストリー、繰り返す災害
- 社会実装、市民の理解、事業者への働きかけ、防災の日常化、技術士のマインド
- 情報発信、選ばれる技術士・技術士会